

## 香川県燧灘大浜海岸におけるマコガレイの出現

山本昌幸

### Occurrence of marble sole *Pleuronectes yokohamae* at Ohama Beach, the central Seto Inland Sea, Japan

Masayuki YAMAMOTO

キーワード：マコガレイ，着底稚魚，砂浜海岸，瀬戸内海

瀬戸内海においてマコガレイ *Pleuronectes yokohamae* は小型底びき網や刺網等の重要な資源である。瀬戸内海東部では1987～1989年に兵庫県，大阪府，岡山県および香川県による共同調査が行われ，それ以降，資源管理のため，香川県では小型魚の再放流を実践している。しかしながら，本種の漁獲量は大きく減少している<sup>1)</sup>。香川県以外の瀬戸内海においても本種の漁獲量の減少は著しい<sup>2,3)</sup>。マコガレイ資源を効率的に増加させるためには，本種の仔稚魚の情報が不可欠である。しかしながら，燧灘海域における仔魚の出現状況は小路ら(2002)の調査によって明らかにされているが<sup>4)</sup>，稚魚の出現については断片的な情報<sup>5)</sup>にとどまっている。本研究では燧灘東部の砂浜海岸におけるマコガレイ着底稚魚の出現状況を明らかにしたので報告する。

#### 材料と方法

調査は2002年5月から2005年9月まで2週間から2ヵ月に1度の頻度で香川県の燧灘に位置する砂浜海岸の大浜<sup>5)</sup>で合計37日実施した(図1)。西水研型ソリネットを，日中に各点で2回ずつ200m曳網して魚類の採集を行った。採集日ごとに定点1で表面水温と塩分を測定した。採集物は5%ホルマリンで固定し，2時間以内にエタノールに置換して保存した。後日，実験室において採集物からマコガレイを取り出し，全長をノギス(0.1mm単位)で測定した。

#### 結果と考察

調査期間中の海水温と塩分はそれぞれ9.0～30.3℃，28.7～33.7であった。マコガレイは2月上旬から6月中旬にかけて51個体採集され(表1)，採集時の海水温と塩分はそれぞれ9.0～25.7℃，31.6～33.7であった。2004年は1月下旬から6月までに計6日調査を実施したが，マコガレイ稚魚は採集されなかった。マコガレイは播磨灘北部<sup>6)</sup>や周防灘周辺域<sup>7)</sup>の10m以浅の砂泥域において2月上旬から6月に多く分布し，7月以降沖合の深場へ移動することが報告されている。燧灘における砂浜海岸での出現時期はこれまでの報告と一致した。

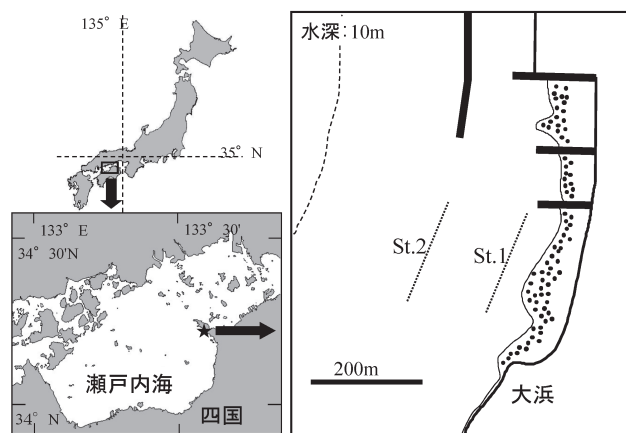


図1 調査海域図

表1 大浜海岸におけるマコガレイ稚魚の採集日と全長

年	月	日	表面水温(°C)	塩分	採集点	全長(mm)
2002	6	13	25.7	32.7	2	53.0
2003	3	24	10.6	33.7	1	14.1
					1	20.4
					1	27.4
					2	10.1
					2	10.5
					2	10.5
					2	11.0
					2	11.1
					2	12.0
					2	12.0
					2	12.0
					2	12.3
					2	12.5
					2	12.7
2	14.0					
2	21.0					
5	22	18.4	32.9	2	41.0	
2005	2	4	9.0	31.6	1	15.6
					1	17.6
					1	18.5
					1	19.2
					1	22.0
					2	19.0
					1	17.5
					1	18.1
					1	19.2
					1	19.7
					1	20.2
					1	20.3
					1	20.6
					1	21.5
					1	21.5
					1	21.7
					1	22.5
1	22.6					
1	23.8					
1	23.8					
1	23.8					
1	23.9					
1	24.3					
1	24.6					
1	24.6					
1	27.1					
2	13.9					
2	17.6					
2	17.8					
2	19.3					
5	20	17.6	32.5	1	40.1	
				1	40.2	
				1	40.5	

採集されたマコガレイの全長は10.1~53.0mmで、着底直後とされる全長10mm台の稚魚は2月上旬から4月上旬に採集された。燧灘における浮遊仔魚の出現時期は1月から3月であることが報告されており、燧灘におけるマコガレイの着底時期は2月上旬から4月上旬であることが示された。播磨灘北部や周防灘周辺域の着底稚魚の出現時期は2月から4月であり、今回の結果と一致した。これらことから、燧灘におけるマコガレイは他の瀬戸内海と同じく2月上旬から4月上

旬に全長約10mmで着底・成長し、6月以降に砂浜海岸から移出することが示唆された。

## 文 献

- 1) 山田達夫・明石英幹：2013. 小豆島北東部海域におけるマコガレイの産卵場. 香水試研報, 14, 59-65.
- 2) 反田 實・五利江重昭・中村行延・岡本繁好：2008. 播磨灘・大阪湾産マコガレイの年齢と成長. 日水誌, 74, 1-7.
- 3) 片山知史：2012. マコガレイの資源動向について. 東北底魚研究, 32, 7-11.
- 4) 小路 淳・前原 務・武智昭彦・谷川貴之・村田憲之・田中 克：2002. 瀬戸内海中央部の燧灘において採集された仔稚魚. 日水誌, 68, 835-842.
- 5) Yamamoto M, Makino H, Kagawa T, Tominaga O：2004. Occurrence and distribution of larval and juvenile Japanese flounder *Paralichthys olivaceus* at sandy beach in eastern Hiuchi-Nada, the central Seto Inland Sea, Japan. Fish. Sci. 70, 1098-1105.
- 6) 香川県水産試験場・岡山県水産試験場・福岡県豊前水産試験場・大分県浅海漁業試験場・山口県内海水産試験場：1975. 魚類放流技術開発調査, カレイ類総括報告書昭和46~49年度. 51pp.
- 7) 東海 正：1993. 瀬戸内海における小型底びき網漁業の資源管理, 投棄魚問題と網目規制. 南西水研研報, 26, 31-106.